

関門海峡通過船の定点観測

2022.9.25 池田良穂

これまで紀淡海峡が見えるところに小さな家を建て、月に 1~2 回は紀淡海峡を通過する船の定点観測をよくしてきたのですが、9 月中旬に九州に滞在した 5 日間のうち 2 晩を、関門海峡が見えるホテルで過ごして定点観測をしてみたいと思いましたが、ちょうど 3 連休とあって、関門海峡が見渡せそうな部屋のあるホテルには部屋に空きが見つかりませんでした。ようやく見つけたのが門司のルートイン門司港というホテルでした。インターネットで調べてみると、最上階には関門海峡が見渡せる展望浴場があるとのこと。関門橋が見える部屋をリクエストして 2 泊することにして、午前中は部屋からのシップウォッチング、午後は車で近隣のまだ見たことのない船を追いかけることにしました。宗像市営船、青海島の観光船については、すでにレポートしましたので、今回はホテルからの定点観測の結果をご報告します。

ホテルの部屋に入ってみると、確かに窓の正面に関門橋が見えました。ただ、窓ガラスが汚れていてとても写真撮影はできそうにありません。窓を開けるとわずかな隙間ができたので、手を延ばして窓ガラスの外側の一部を拭き、カメラのレンズくらいの部分をなんとか綺麗にして、三脚にカメラをセットして何時でも撮影できる体制を整えました。

3 日間の朝の定点観測で、紀淡海峡の船とはずいぶん船種が違うことに気が付きました。とにかく韓国、中国のコンテナハブ港と瀬戸内海の港を結ぶ小・中型のフィーダーコンテナ船の通過の多いこと。そして PCC や RORO 船の姿が少ないこと。この間、客船の通過は「蘇州號」の 1 隻だけでしたが、まだ旅客輸送が解禁にならないためか AIS では「貨物船」となっていました。



関門橋の下を通過する「蘇州號」です。



中国のコンテナ船「COSCO Kiku」です。



コンテナ船「JASCO Helen」です。



コンテナ船「Sinokor Akita」。東向きの通過船は、斜め後ろの姿しか見られませんでした。



RORO 型鋼材運搬船「泉翔」です。



はじめて見た韓国の RORO 貨物船「Ilshin Polaris Royal」です。船尾に広いランプウェイを持っているようですが、この角度の写真しか取れず、後でインターネットで探した写真で RORO 型船と知りました。



各種のタンカーの姿も見られました。



船首ブロック等に乗せて引かれていくバージも通過しました。瀬戸内のどこかの造船所に行くのだと思います。



ホテルの窓からの景色です。関門橋は見えていますが、東向きの部屋なので、関門海峡全体は見渡せません。窓ガラスが汚れており、その窓も少ししか開かないため、その隙間からレンズを向けて撮ることも。